

## LATE COME'S ADVANTAGE(ADVANTAGES OF LATE COME'S)

「後からきた者(おくれてきた者)の利益」とは

開倫塾

塾長 林 明夫

### 1. はじめに

「後からきた者の利益」という言葉は、開発経済学の言葉の一つです。“Late come's Advantage”または“Advantage of late come's”の日本語訳です。

日本がアメリカの、アジア・ニース諸国が日本の、アセアン諸国がニース諸国の、それぞれ「後からきた者」としての「利益」を多く受け、大きな発展をとげてきました。

「後からきた者」は、「前の者」からいろいろ指導を受け、お金を出してもらおうと同時に、「前の者」の成功例をよく見習い、また、失敗例を見ながら同じ失敗をすまいと努力を重ねる結果、大きな「利益」を得るのです。

この「後からきた者」という開発経済学の言葉は、発展途上国の経済がどのように発展をするかを考える上でとても参考になりますが、次のような他のことにもいえます。

### 2. 北関東を考える

社会をよく勉強した人は「日本の3大工業地帯」の工業出荷額の順序が、第1位京浜工業地帯、第2位阪神工業地帯、第3位中京工業地帯というのは20年前の話で、10年前からは2位と3位が入れ替わり、1位京浜、2位中京、3位阪神となったことまではよく知っていることと思います。

しかし、この順序では最近の私立中学入試の問題では正解とされません。1位京浜工業地帯は変わらずですが、2位に「北関東工業地帯」が入り、3位が中京となっているからです。

我々の住む「北関東」は、日本で第2位の大工業地帯なのです。(この場合「北関東」は「茨城・栃木・群馬・埼玉」の4県を指します。)ここまで読まれた方は、我々の回りの一体どこにそんな大きな工業地帯があるのかと、疑問を持つ方も多いと思いますが、よく北関東の4県を眺めてみますと、各県の要所に本格的な工業地帯があり、それらが混然一体となって北関東の工業出荷額を日本2位にまで押し上げたものです。京浜工業地帯ののびる率よりも北関東工業地帯の伸び率の方がはるかに高いため、おそらく2000年までには、北関東工業地帯が日本で第1位の工業出荷額のある工業地帯になると思われます。

では、なぜ北関東がそうなったか。東京とその周辺は土地の値段が高すぎて工場を維持できないので、その近隣の北関東に進出したということも一つの理由です。しかし、もっと大きな理由は、先進の3大工業地帯の指導や投資を受け、成功例や失敗例を学びながら「後からきた者の利益」を北関東の4県がたっぷり享受したということです。

### 3. 現代の工業地帯の問題点

ただし、北関東が大工業地帯になったということは、工業地帯の抱える問題を一つ一つ丁寧に解決していかなければ、成り立ちゆかないことも意味します。つまり「産業廃棄物の問題」「外国人労働

者の問題」「構造転換の問題」「物流拠点地づくりの問題」「交通網の整備の問題」など、たくさんの解決しなければならない大きな問題があります。

最近ではこれに加えて、更に大きな「不況をどう乗りきるか」という問題もあります。1ドル105円台にまでなり、輸出が大変になったのと同時に、消費者の財布のひもが固くなり、個人消費が減ってきているため物やサービスが売れなくなったからです。今秋には、戦後日本始まって以来の更なる円高が訪れると考えられますので、日本一の工業地帯になりつつある北関東では、今から対策を充分講じておかなければなりません。今まで不況であった時のことを充分研究して「後からきた者の利益」を不況時の対策にも応用してはじめて本当の工業地帯が形勢されると信じます。

その意味で、国や県、市町村の首長や議員を含む公務員、銀行などの金融機関、会社で働く人たち（とりわけ皆さんのお父さん、お母さんのような30歳過ぎの幹部職員）の果たす役割がとてつもなく大きいのが、現在ではないかと思われまます。

#### 4. 学生という職業を考える

「後からきた者の利益」を一番受けることのできるのが「学生」という職業です。開倫塾をはじめ、学校やいろいろなところで教わるすべてのことがらは「先にいた者」が命を懸けて考え、伝え残したもののばかりだからです。

日本は世界で最も裕福な国の一つです。

日本の総生産(CNP)の1人当たりの平均は、とうに2万ドルを超し、3万ドルにまで迫りつつあります。お隣の中国は300ドル、旧ソビエトはそれ以下なので、生きるか死ぬかの生活です。躍進する韓国でさえ、まだ6千ドルです。1万ドルになるとかなり生活必需品が買い揃えられ、2万ドルで何不自由ない生活が送れるとされています。不況とはいえ、3万ドルに近づきつつある日本は、物はあり余り、「本物」しか身の回りには置かない状態になりつつあります。精神的、内面的充実を求めることが3万ドルのライフスタイルとさえ言えます。

こんな中に日本の「学生」は存在するのだということを、たまには考えてもらえたらと希望します。

さらに、日本は世界でも最も基本的人権の守られている国で、とりわけ思想・表現・学問の自由は手厚く守られています。この円高ですから、お土産さえ買わなければ、いくらでも海外旅行は安くできます。

日本国内のみならず海外の「先にすすんだ者」を追いかける「後からきた者の利益」の考え方は有用です。いつごろから、何をどのように勉強すれば、最も少ない時間で最大の効果が得られる勉強ができるかということも、前にいる人から学べばよく分かります。「後からきた者」は、前の人の成功例、失敗例を充分研究できるからです。

どのような勉強に取り組む場合も、どうしたら最も短時間で正確に力をつけることができるかを、「後からきた者の利益」という観点から研究することをお勧めします。

《注意》ただ、あたりまえのことですが「勉強の絶対時間の確保」（一定のものを身につけるには、必ず一定の時間は必要であること）は、くれぐれも忘れてはなりません。遊んでいて日本一、世界一のレベルにまで到達することなどないからです。全身全霊一つのことを打ち込んで、はじめて「ものが見えてくる」（開化する）ことは、どのような勉強の分野にもいえることなのです。